

春のページ

長根りんこ

ページをめくれば

田中さんの家 餅屋 花屋

植木鉢 錆びた自転車

高さ十メートルの防潮堤

ふるさとの家が あった

ページをめくれば

横断歩道の向こうで手を振っていた

台所で茄子を焼いていた

線香花火をしていた

幼なじみと笑っていた

妹よ あなたが いた

ページをめくれば

三陸鉄道の待合室

震えながら歩いた線路

風にゆれるアカマツの林

あの日のすべてが 記された一冊

海辺の小石のように

活字はまだ濡れている

本を胸に抱いて

重さを確かめて

十一回目の三月を重ねて

新しい春のページをひらく

本は微かに発熱する